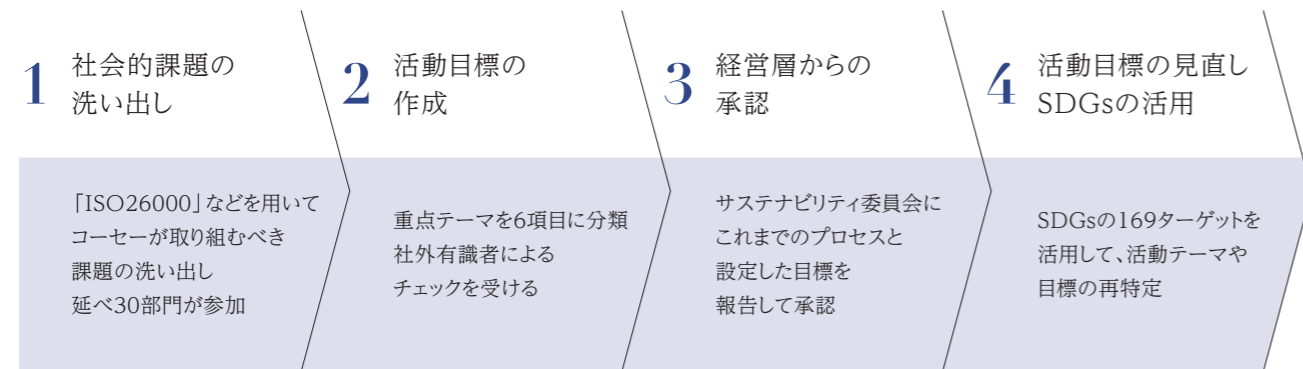


サステナビリティへの取り組み

コーセーグループは、サステナブルな社会の実現に向けて、ISO26000などのガイドラインやESGに関する外部評価などを用いて課題を洗い出し、国際社会の変化にも配慮しながら優先的に取り組むべき課題を選定、サステナビリティ活動を展開しています。2017年7月に「国連グローバル・コンパクト」に署名し、今後特に注力すべき課題と、寄与することが可能と考えるSDGsの目標を選定しています。

サステナビリティ活動目標決定のプロセス



活動テーマと目標をSDGsを活用して再確認

コーセーグループが製造販売する化粧品は、世界のお客さまの社会における活躍を支援し、QOL向上に資するものと考えています。また、原材料の調達活動における人権配慮や環境負荷低減などをはじめ、私たちのあらゆる企業活動はSDGsの目標と深くかかわるものです。

そこで、2016年に発効されたSDGsを活用し、これまで実施してきた個々のサステナビリティ活動テーマと、SDGsの17の目標、169のターゲットを結びつけ、あらためて整理し再確認を行っています。

- 以前からのサステナビリティ活動目標一覧とSDGsの169のターゲットの整合
- 活動テーマの優先順位の確認と、特に優先すべきテーマの設定

※詳細はP38~39に記載しています。

「国連グローバル・コンパクト」に署名

2017年7月、「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」に署名しました。サステナビリティ基本指針である「美しい知恵 人へ、地球へ。」「正しきことに従う心」に基づき、グローバル社会の一員として、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたるUNGCの10原則を支持・実践し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

▶ 詳細 <https://www.kose.co.jp/company/ja/csr/target>



重点活動テーマを特定

コーセーでは、「ISO26000」などのガイドラインやESGに関する外部評価などを用いて企業活動を整理し、活動テーマと中期目標を設定してきました。2017年度には、SDGsを活用して中期目標の中から優先すべきテーマの特定を行いました。「社会からの期待や要請」と「コーセーにとっての重要度と社会へ与える影響の大きさ」の2つの軸から評価を行い、重点活動テーマを掲げました。各々、SDGsの目標に関連し、寄与することが可能と考えてい

ます。2018年度には初めての統合報告書を発行、2019年度からは専任組織を社内に設置し、委員会の名称も改称するなど、今後ますます「サステナビリティ」に注力することを表明しています。

なお、今後の社会からの期待や要請の変化に伴い、随時、重点活動テーマの見直しを行ってまいります。

▶ 詳細 <https://www.kose.co.jp/company/ja/csr/target/>

優先度の検討を実施

3	CO ₂ 削減 水の効率的利用	スキンケアによるアレルギー予防	環境負荷低減 持続可能な調達
2	ポルフィリン症患者支援	タンザニア女性教育支援	「SAVE the BLUE」プロジェクト 腐敗防止
1			
	1	2	3 4

コーセーにとっての重要度や社会に与える影響度

重点活動テーマ

- 12 つくばる つかう 減らす ♻️ 製品ライフサイクルでの環境配慮
- 13 気候変動に貢献 ♻️ 持続可能な調達の推進
- 14 海洋資源を大切に ♻️ 廃棄物削減(ゼロエミッション)
- 3 心と体にやさしく ♻️ スポーツ振興による健康増進
- 15 自然環境を大切に ♻️ スキンケアによるアレルギー予防
- 5 女性活躍を推進 ♻️ ポルフィリン症患者のQOL向上
- 14 海洋資源を大切に ♻️ 「SAVE the BLUE」プロジェクト
- 5 女性活躍を推進 ♻️ 化粧品を通じた女性活躍支援
- 15 自然環境を大切に ♻️ 「SAVE the BLUE」プロジェクト 森林資源保全
- 5 女性活躍を推進 ♻️ タンザニア女性教育支援

SDGs 国連 持続可能な開発目標とは

2015年9月、全国連加盟国(193ヵ国)は、より良き将来を実現するために今後15年かけて極度の貧困、不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画「アジェンダ2030」を採択しました。この計画が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」です。SDGsは、ミレニアム開発目標で十分に手を打てなかった課題に加え、Rio+20*で議論された深刻化する環境課題など17の目標と169のターゲットに全世界が取り組むことによって『誰も取り残されない』世界を実現しようという壮大なチャレンジです。

※2012年にリオデジャネイロで開催された「国連持続可能な開発会議」

▶ 引用：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンのウェブサイトより <http://www.ungcn.org/sdgs/index.html>



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

サステナビリティ活動目標一覽



ステークホルダー	重要課題	活動テーマ	中期目標	2018年度実績	該当するSDGsターゲット
お客さま	リアライビリティ 【Reliability】 美の創造企業として、 安心・安全を最優先に 高品質な商品・サービスを提供します。 + アダプタビリティ 【Adaptability】 世界の多様なお客さまのご満足のために 取り組みます。	安心・安全・品質	グループ全体の品質保証体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・[ISO22716]の導入に向けたプロジェクトの発足 ・品質クレーム低減への取り組み強化、自主回収手順の標準化 	3 8
			グループ全体の安全性保証体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究開発」ウェブサイトにて当社の「安全性保証」について掲載し発信 ・新規流通ルートや国など、拡大するビジネス領域に対応する安全保証体制の整備を推進 	
		お客さま視点の研究・商品開発	化粧品を通じ、グローバルに多様な顧客満足に取り組む(地域、嗜好、年齢、性別、LGBT、宗教、障がい者など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「消費者志向自主宣言」を実施し公表(2018年4月) ・世界の多様なお客さまニーズに応えるモノづくり企業として「アダプタビリティ」強化の方針を公表 	5
			ユーザビリティの向上に配慮した商品・パッケージの開発推進	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが使いやすい、詰め替えも容易な商品パッケージの開発推進 ・触覚識別性パウチ容器の採用 	3
		お客さまとのコミュニケーション	美容医療・予防医学・健康増進分野との関係深化とQOLの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾大学医学部に設置した寄附講座にて、スキンケア・アレルギーに関する研究の支援を継続 ・ポルフィリン症患者さんへのファンデーション提供によるQOL向上の社内スキーム構築を開始 	3
環境	生物多様性や環境保全に配慮し、 省資源・省エネルギーに 取り組みます。	バリューチェーン全体での省エネ・省資源	温暖化ガス排出量の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂排出量算定範囲の拡大(子会社、事業所)とデータ集約の効率化 	12 13
			水資源投入量・排水量の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> ・水使用量・排水量のデータ収集と効率化の推進 	6
			廃棄物量の把握と削減	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物量のデータ収集と効率化の推進 	12
			商品容器・包装における環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・製品のプラスチック使用量削減への取り組み強化 ・FSC認証紙を商品外箱に採用 	12
			商品内容物における環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年1月より、マイクロプラスチックビーズ使用洗浄料の出荷を全廃 ・サステナブルなパーム油採用の取り組み方針を策定し公表 	14 15
			環境対応ポリシー・指標開示の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応指標の開示範囲拡大の推進 	14
		生物多様性の保全	[SAVE the BLUE]プロジェクトの継続と地球環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・[SAVE the BLUE]プロジェクト10年目、国際サンゴ礁年を節目としたサンゴ礁保全とその発信などのさまざまな取り組み。計10の国と地域に拡大 ・冬期の森林保全への活動を新たに開始 	13 14 15
取引先	創業からの「共存共栄」を継承して、 サプライチェーン全体で サステナビリティ活動を推進します。	原材料調達	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンにおける持続可能な調達の推進 ・CSR基本方針に基づく定点観測の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライヤー向け調査にGCN]標準を取り入れ、人権配慮(海外の児童労働・労働条件等)などの強化を推進 	12
		サステナブルなパーム油の調達	サステナブルなパーム油を2020年度までに調達開始	<ul style="list-style-type: none"> ・社内にサステナブルなパーム油調達のタスクフォースを発足し、今後の取り組み方針を公表 	12
従業員	従業員一人ひとりが 能力を十分に発揮できるように、 人材育成と職場環境の整備に努めます。	人権の尊重	人権教育啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の多様性配慮の促進(LGBTなど)に向けて新任管理職研修を実施 	5
		ダイバーシティの推進・働き方改革	ダイバーシティの推進と柔軟・多様な働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革実行委員会を発足。柔軟・多様な働き方の提案により、女性が輝く風土づくりへの取り組みの検討を実施 その一環として、一部(本社)にて在宅ワーク制度の導入を開始 	8
			障がい者雇用、退職者再雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブリターン制度(退職者の再雇用)の導入(2019年2月) ・障がい者雇用率は年間を通して法令に準じ、安定雇用を継続 	
		従業員の健康増進と啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康経営優良法人(ホワイト500)」の3ヵ年連続認定 		
地域社会	地域社会の調和と共生を目指し、 化粧品を通じた 社会貢献を進めます。	学術支援	大学を中心とした学術支援	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾大学医学部に設置の「コーサー スキンケア・アレルギー予防医学寄附講座」が第2期(2年目)として継続 ・公益財団法人コスメトロジー研究振興財団の支援を通じた、化粧品学の発展に向けた継続支援 	3
		スポーツ振興支援を通じたQOLの向上(健康増進)	「美」「芸術性」「ファッション性」などの要素を含む各種スポーツ振興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人日本スケート連盟オフィシャルパートナーとして支援を継続(13年目)、国際スケート連盟オフィシャルパートナーとして支援を継続(7年目)、アーティスティックスイミング オフィシャル コスメティック パートナーとして支援を継続(13年目) ・新たに公益財団法人全日本スキー連盟(SNOW JAPAN)とオフィシャルスポンサー契約を締結し支援開始(2018年10月) 	3
			一般向けスポーツイベントへの協賛による健康増進と地域振興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・日本各地のウォーキングイベント「歩き愛です」、茨城県坂東市「いわい将門ハーフマラソン」、埼玉県「小江戸川越ハーフマラソン」に協賛、「スポーツビューティ」ブランドによる石垣島マラソンに協賛 など 	3
		文化継承	文化・芸術振興支援	<ul style="list-style-type: none"> ・第15回「世界バレーフェスティバル」に協賛、東京都北区王子の大晦日の祭り「狐の行列」に協賛 	
		被災地支援	「fukushima さくらプロジェクト」などを通じた継続的な被災地支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「fukushima さくらプロジェクト」に継続参加し、プロジェクトマップに協賛。福島発のさくらの苗木を保育施設に植樹 	
		教育・女性支援	世界の女性に質の高い教育の提供・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・中央アフリカ タンザニアの「さくら女子中学校」の支援を継続(3年目) 	4 5
サステナビリティマネジメント		サステナビリティ基盤整備	グループ全体でのサステナビリティ基盤と活動体制の整備、社内浸透促進	<ul style="list-style-type: none"> ・[ISO26000]に基づく方向性の整理と課題抽出の継続実施 ・[国連グローバル・コンパクト]への参加と、重要活動テーマへのSDGs組み入れを継続(2年目) 	
		コーポレート・ガバナンス	健全な経営遂行と、社会的信用を保持するための体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・社外取締役を1名から2名に増員 	
		ステークホルダーエンゲージメント	ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話	<ul style="list-style-type: none"> ・[ISO26000]に基づく課題および取り組み状況の開示を継続 ・SDGsへの貢献に関する方針の発信 ・ステークホルダーへの各種サステナビリティ情報発信の強化 	
		コンプライアンス	コンプライアンス活動推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アニュアルレポート、企業案内、サステナビリティ報告書を一体化した統合報告書「KOSÉ REPORT 2018」を初めて発行(2018年9月) 	
		情報セキュリティ	個人情報保護体制と予防対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンプライアンスの基礎」のe-ラーニング、コンプライアンス啓発ポスターの社内掲示などを実施 ・自社ウェブサイトのSSL化によるセキュリティ強化 ・デジタル事業拡大に伴うセキュリティ対応 	16